



この詩篇16篇は、今から約3000年前にダビデによって記されたものですが、それから1000年後のペンテコステの時にペテロはこの詩篇を引用してイエスキリストについて語りました(使徒2:25-28)。

「あなたこそ、私の主。私の幸いは、あなたのほかにはありません」、また「主が私の右におられるので、私は揺るがされることがありません」とのことばは、神を信じるということについてははっきりと告白しています。

① 私の幸せは、神にあるということ

“神よ 私をお守りください。私はあなたに身を避けています。

私は主に申し上げます。「あなたこそ私の主。私の幸いはあなたのほかにはありません。」”

1-

“ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたすのです。私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。”

2コリント4:16-

② 神を自分の前にいつもおくこと

“私はいつも主を前にしています。

主が私の右におられるので 私は揺るがされることがありません。” 8

③ 真のいのちがもたらす喜び、楽しみということ

“それゆえ私の心は喜び 私の胸は喜びにあふれます。私の身も安らかに住まいます。あなたは私のたましいをよみに捨て置かず あなたにある敬虔な者に 滅びをお見せにならないからです。あなたは私に いのちの道を知らせてくださいます。満ち足りた喜びがあなたの御前にあり 楽しみがあなたの右にとこしえにあります。” 9-11

“あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前で、私を喜びで満たしてください。” 使徒2:28

<話し合ってみましょう>

- ・ダビデは、神によって与えられた良いもの、たとえば罪の赦しや平安とか祝福というものを喜び以上に、神自身を喜んでいます。あなたはどうでしょうか。考えてみましょう。